日本女医会誌
復刊第56号

新年度雑感

会長　三神美和

梅雨明けとともに真夏の陽ざしは容赦なく照りつけて、毎日うだる様な暑さとなりましたが、会員の皆様にはお元気にご活躍の御事とおよろこび申し上げます。

帝国ホテルで行われた豪華な総会から早や二ヶ月が過ぎました。全国から参加された会員の皆様のご熱意によって新しい役員も定まり、一九七六年に迎える国際女医会々議への態勢が整ったことになりました。新役員の面々は、どなたもご立派で、日本女医会のため一致協力してご活躍くださる方々でありまして、私も意を強うしております。

日本女医会は、年代を問わず、学閥に捉らわれず、全国の女医の綜合された活動の中心であり、国際的連けいの場でありますが、この主旨に添うように、今度の役員は、従来と違ったニュアンスをもっております。いままでは「御三家」といいましょうか、至誠会、鶴風会、加多乃会でのみ構成された役員でありましたが、この度、はじめてその他の医科大学出身の理事が生まれたのであります。このことは本来の日本女医会の在り方に近づいたことになり、一歩前進と考えるのであります。このことにより必ずや会員の層が拡大されることと存じます。このえらばれたお二人の新理事に大いに期待申し上げております。

この度の役員選挙は、新しい選挙細則にもとずく、はじめての役員選挙でありましたので、よい面も、その反面も色々と出ていたように思います。よい面は従来よりも、より民主的に行われたということでありましょう。悪い面は、一般の選挙につきもののはげしい選挙運動が行われたということであります。なかには苦々しい思いをされた方もあると存じます。あまり熾烈な運動は同じ仲間を傷つけることにもなりかねないと思います。このようなことは同じ目的で仲よく協力してゆく日本女医会の精神にそぐわないようにも思います。

この度行われた選挙の欠点をよく反芻してよりよい選挙細則に改正してゆくことが今後残された問題と存じます。

新役員会が六月二三日に開かれ、役員の業務分担がきまりました。皆さまとても張切って積極的に仕事にとり組んでおられます。今後三年間は国際女医会議に対する準備期間でありますので、いつもの日本女医会の運営だけでなく、国際女医会議に向っての準備態勢をとらねばなりません。新役員会では、国際女医会々議における仕事の分担をも併せて決定致しました。ことが国際女医会議となりますと、業務がとても広範囲になりまして、各部所の責任者だけでは到底賄いきれるものではありません。先日は大体のアウトラインをきめただけでありますが、これから本格的に、具体的に仕事を進める必要があります。役員の方々はその中心となってやって頂くのでありますが、これにご援助、ご協力を頂かなければ準備を全うすることは出来ないのであります。

全国の会員の皆様の絶大なご援助、ご協力を心からお願い申し上げます。

七月七日、至誠会館の落成式が行われ、新役員の方々にご招待を頂きました。その節、日本女医会の新しい事務所も見て頂いたのであります。至誠会館新築の話のあった時から、日本女医会事務所の移転先のことがいつも理事会の議題となりました。現在の日本女医会の財政状態では独立した会館を早急に建てる余裕はなく、さればといって他に事務所を持つことも不可能な会計状態でありましたので、至誠会館の一室を拝借することになりました。

日本女医会が会員の皆様のお力によって、一本立ちした立派な事務所を持てるまで拝借することになります。至誠会理事会のご寛大なご処置に心から感謝申し上げる次第です。南向き四階にある事務所は、眺望よく、明るく、居心地は最高です。事務能率の上ることは必定と存じます。国際会議を控えて、この新しい事務所は大いに役立つことと期待しております。

来年リオ・デ・ジャネイロで行われる第14回国際女医会議は十月一三日から七日間に渡りますが、その前の一週間、ブエノスアイレスで国際小児科学会が開かれることになっております。そこでブラジル行のコースを三種類もうけることに致しました。Aは国際女医会議と観光、Bは国際小児科学会と国際女医会議と観光、Cは国際女医会議のみに参加するものの三種類であります。別に詳しく掲載することになっておりますので、よくご覧くださいまして、多数お申し込みくださいますようお願い致します。演題も公害問題をとりあげて多数出題する予定であります。日本女医会の実力を示すために、会員の皆様のご参加を切に希望致します。

元気を出して

副会長　川那部喜美子

今年も早や、盛夏の訪れとなりました。

会員の皆様にはいよいよお忙しい時節がまいりましたが、ご機嫌いかがでございますか。

先般の本会の昭和四八年度総会にての役員改選で私は重ねて副会長に選出されました。至らぬものでございますが皆様のご支援を頼りにいたしまして精一杯の努力をいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

本会も歴代の会長のお力によりまして年々充実発展の道を進み、三年後には国際女医会の東京会議を引き受けるという元気が出ました。一九六〇年の国際女医会へ代表団初参加の時を想い出してまことに感慨深いものがございます。国際情勢の大きな推移、日本の予想外の経済力の上昇、変らぬ日本文化の魅力そして本会の量的質的参加の実績の積み重ね等が日本での開催実現の大きな因子であると存じますが、一九六〇年以来本会の国際連絡関係担当役員の方々の優れたお人柄や語学力をもっての絶えざるご活動による信頼度に大いにあずかっておるものと存じられ、それは小野春生氏が次期国際女医会長に決まりましたことが物語っております。

今期の本会役員はこの大事業の東京

第十四回国際女医会へどうぞ

国際連絡書記　佐野アヤ子

待望のブラジルでの国際女医会は来年の十月十三日から十九日まで、リオデジャネイロで開催されます。テーマは「人類の健康に及ぼす遺伝と環境」で、いろいろの角度から検討されることになっています。

日本女医会からは山崎倫子先生らの「日本の公害疾患」、東京女子医大眼科の小暮美津子先生と北里大医学部眼科の今井弘子先生の、「日本における有機燐殺虫剤による眼症状」、添田百枝先生の「公害アレルギー疾患の治療」などが発表される予定です。

旅程としてはA・B・Cの三コースが計画されています。

Aコース（普通コース）

昭和四十九年十月一日から二十三日まで二十三日間

費用は約八五万円（ただし参加者六〇名の場合）

旅程　東京発

タヒチ三泊、南太平洋の蒼いサンゴ礁と南十字星

クスコ二泊、インカ遺跡見学

リマ一泊

ブエノスアイレス二泊

サンパウロ二泊

リオ・デ・ジャネイロ七泊、国際女医会議へ出席

サンファン二泊、カリブ海

サンフランシスコ一泊

東京着

Bコース（国際女医会と国際小児科学会へ出席コース）

昭和四十九年九月二十六日から十月二十三日まで二十八日間

費用は約七九万円（ただし参加者四七名の場合）

旅程　東京発

ロサンゼルス一泊

リマ一泊

クスコ二泊

ブエノスアイレス八泊、国際小児科学会出席

サンパウロ二泊

リオ・デ・ジャネイロ八泊、国際女医会議出席

ロサンゼルス二泊

東京着

Cコース（短期コース）

昭和四九年十月十一日から十月二十五日まで十五日間

費用は約七二万六千円（参加者十名の場合）

約六七万円（一五名）

約六四万円（二五名）

旅程　東京発

ニューヨーク一泊

リオ・デ・ジャネイロ六泊、国際女医会議へ出席

リマ一泊

メキシコ・シティー二泊

ロサンゼルス二泊

東京着

以上いずれのコースにも会議出席中の小旅行を計画していますが、国際女医会登録費と催物、小旅行費、会議中の昼食代などは上記料金に含まれておりません。なお多少の変更はまぬかれません。**申込み締切りは令年十二月十五日**までですが、なるべくお早目に日本女医会本部までお申込み下さるようお願い致します。

国際女医会日程案

十月十三日（日）登録、夜開会式、パーティー

十四日（月）学術会議とパーティー

十五日（火）学術会議、午後総会、パーティー

十六日（水）ブラジリヤ、ペトロポリスへ旅行

十七日（木）学術会議、午後総会とパーティー

十八日（金）病院と施設見学、午後グループ討論会、晩餐会

十九日（土）閉会式

以上

至誠会館落成を祝う

副会長　小俣喜久子

去る七月七日、至誠会館落成式に日本女医会役員一同ご招待を頂きましたので私共有志でお祝いに参上いたしました。会館は地下一階、地上四階の鉄筋コンクリート造りで、一、二階は保育園として使用されて居りますが、ガラス張りで各部屋は明るく清潔で、ゆきとどいた気の配りは女医の設計ならではと感心いたしました。三階は至誠会事務室・会員の宿泊室・小会議室があり、地方の会員の便宜を考慮しての細かな設備等、誠にやさしい心情に敬意を表しました。また四階は既に日本女医会総会でご報告いたしました通り一室を日本女医会事務所に借用しており会議の準備を整える責任が課せられておりますので先日の理事会で準備体制の骨子が組み立てられまして私は募金部長即ち資金調達係の世話人という大役を仰せつかりました。三神会長を推戴いたしておることではありますが根本的には会員皆様のご理解ご参加が基礎となりますことであり、更にまた皆様のお顔やお力をおかりいたさなければ効果的に遂行出来ることではございません。これまた皆様によろしくお願い申し上げなければならないところでございます。

私は現在男女共学の大学の機関に勤務いたしておりますが、このような環境では女子学生や若い女医（私達からは女医と目している人々）には「女医」という考え方は奇異に感じられ「女医会」に対しても無関心といったものでございます。女医会がより有力で且つより魅力的な存在になればこれらの人達にも影響力をもつ訳でございましょう。伝統ある本会をよりよいものに育ててまいるために皆様と心を合わせ手を繋ぎあいましょう。

今や私達医師の身辺も周囲の社会も複雑多岐な問題をかかえ困難さを増して来ております。いよいよ皆様のご健康をお祈り申し上げます。

☆　☆

暑中御見舞申し上げます。

七月に入り酷しい暑さが続きますが先生方には益々ご健勝でご活躍のことをお慶び申し上げます。私もお蔭様にて先生方のご支援により再び副会長の重席を汚すことになりました。

一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

総会後初めての新しい理事会が先月開催され各々理事の担当部署もきまりました。副会長はどの部にも属さないで会長を補佐し、全役員と共に和をもって会のために働くことになりましたので今後ともよろしくお願い申し上げます。

落成式披露夏風景

至誠会館南面　1,2 階 保育園，3,4 階 至誠会，4階右 日本女医会事務室

新事務所での執務状況

ます。冷暖房完備で現在は快適な涼しさで仕事の能率が上ると事務員一同張切っておりました。隣室は会議室になっておりますので今後、日本女医会会議にも再々拝借することでございましょう。

至誠会の先生方に改めて御礼申し上げます。何はともあれこの素晴しい建物について私の拙文で喋々喃々するより〝百聞は一見に如かず〟の例え通り先生方に是非一度御覧下さるようおすすめいたします。そしてこの立派な至誠会館が完成いたしましたことは東京女子医大の輝かしい長い歴史と共に生まれた至誠会員の先生方が母校を思い同窓会をはぐくむ先輩、後輩の相互扶助の精神が徹した結実であると至誠会員の諸先生に尊敬の念をもって心から御祝詞申し上げます。本当におめでとうございます。

このように立派な先生方が多勢会員である日本女医会も何時の日か近い将来に必ず日本女医会会館を設立することができると確信いたしました。しかしそれまではせめて一年毎の新期借用の手続のない安定した事務所があったら……等あまい考えをしながら新装なった美しい至誠会館を辞してまいりました。

吉岡弥生賞を受賞して

関西医大　第二内科　鮫島美子

この度はからずも日本女医会吉岡弥生賞（学術部門）を受賞いたしまして、会長三神美和先生、本賞の創設につくされた荒川あや先生を始め日本女医会の諸先生に厚く御礼申し上げます。

私は昭和十九年に関西医科大学の前身大阪女子高等医学専門学校を卒業いたしましたので、吉岡先生には直接ご指導頂きませんでしたが、日本における女子の医学教育を創始された吉岡先生にたいし、女医を志した一人として常々満腔の尊敬と感謝の念を抱きつづけてまいりました。今回吉岡先生の御名を冠した吉岡弥生賞を受賞いたしましてその感激は一しおでございます。

受賞の対象になりました仕事は、消化器癌の酵素診断、薬剤性肝障害の酵素診断に関するもので、いづれも昨今広く臨床に応用されております酵素診断について検討したものであります。

私どもは十年余り前から消化器疾患の酵素診断を手がけ、約二十種程の酵素活性を、主として血清について測定してまいりましたが、癌疾患で血清中に増加する酵素は肝疾患でも増加いたします。しかし解糖の初段階で働くヘキソキナーゼ、アルドラーゼおよびそれらのアイソザイムは担癌動物にもヒトの癌にも特異性があり、臨床診断に使用できることを知りました。しかし早期癌の診断ということになりますと、まだまだ無力であり今後検索すべき問題が多く残されております。

第5回吉岡賞受賞式　48. 5.13

また最近社会問題となっています医原疾患の一つに薬剤による肝障害があります。起因薬剤の決定には再投与による誘発試験が最もたしかな方法でありますが、時には思わぬ危険がおこりますため、起因薬剤の決定には種々の検査方法が各方面で検討されつつあります。私どもは数年前に、少量の起因薬剤と推定されるものを再投与し、二四時間～四八時間後、血清のグルコース－6－ホスファターゼ、イソクエン酸脱水素酵素、アルドラーゼ、アルカリホスファターゼなどの酵素を測定して、殆んど自覚症状なしに起因薬剤の判定ができることを臨床的にも実験的にも証明しました。肝細胞の小胞体には薬物代謝酵素系があり、薬物はここで代謝されることがわかってきまして、最近この方面の研究が生化学、薬学のみならず臨床方面でも盛んに行われております。

実験動物に薬物を与えて電顕でみますと、肝細胞小胞体の増生が認められます。グルコース－6－ホスファターゼは小胞体の示標酵素であり、かつ肝障害実験では最も敏感に、最も早期に血中で増加する酵素でありますから、再投与試験のような予期される肝障害を早期に発見するには、現在肝機能検査で慣用されているGOT、GPTのような酵素よりも適切であるというのが私どもの主張でありますが、本酵素

は測定操作が面倒なため、一般には用いられておりません。これらの仕事は同門の塩崎安子講師を始め水野孝子、笹川美年子両博士ら後輩の諸姉、諸兄の絶大なご協力によるもので、今回の受賞は年長の故をもって私が代表で頂いたものと考えております。

新理事抱負を語る　到着順

竹内　静香

酷暑の昨今でございますが諸先生には益々ご機嫌麗しくお過しの事と拝し上げます。

去る五月理事選出の際は諸先生の一方ならぬご支援とご高配を賜わり日毎に責任の重大さと光栄をしみじみと噛みしめる私でございます。そして今日までこの女医会を陰に日向に大きく育て盛り上げて下さいました会長、副会長各役員の先生また会員の諸先生の尊いお心を更に感謝とともに押し広げる義務を感じ微力無経験の身に鞭打ち日夜つとめたい考えで一杯でございます。どうぞ今迄以上にご指導ご叱正を賜わりますよう心からお願い申し上げます。

女医会について考えておりますことは「女医即ち女医会員」という姿にそれがあたりまえで極く自然のことであるというようにあってほしいと思います。全国一一、〇〇〇人の女医のうち四、五二四名が会員ではまだ半数にも満たない現況でございます。

そのためにより一層の支部活動を盛んにし学術趣味等にわたって地域としての特色ある集合を重ね、お互に個人々々をもっと知り合い理解を深めていきたいものです。いつの間にか皆で手を取り合って輪を作り集団の実績をあげて行き、その事実が次第に大きな波紋となって全国の女医即ち女医会員と言う姿に拡大されて行くのではないでしょうか。それがまたやがて女医会館の設立も可能ということになりましょう。

丁度三年後の国際女医会開催の一つの目標がございますので、この機会にみんなで呼びかけ輪を拡げ精一杯力をふりしぼって成功させようではありませんか。

また、現在のような世の中の歪に対しても今年度の女医会の事業に公害調査が取りあげられております。調査防疫等に広く手を伸ばし援け合い、例えば「自然に還れ」運動でも活発に努力し、手をつないで世界にその輪を拡げ、人類の幸福発展にまで漕ぎつけるのも夢ではないと信じます。

右はなはだ粗雑な私見かとも存じますが私の日頃の抱負を述べさせていただきました。

終りにのぞみまして諸先生のご健康とより一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。　四八・七・二四記

八木　貞子

編集委員の先生より、新理事の抱負を書くようにとのご指示を受け、生来の拙い筆ではありますが、誌上をお借りして理事当選の御礼と、所感を記させて頂く機会を得ました事を、幸と存じます。

今回は先輩及び会員諸先生のご好意とご支持を頂き、理事としてお手伝い出来ます事を、厚く御礼申し上げます。

五月の総会より早くも二ヶ月を経て理事の第一歩を歩み始めましたが、今更ながらその重責に驚き、且決意を新たにしている次第でございます。いいかえれば、それ程日本女医会は、目覚ましい躍進をつづけているのでございます。これも豊かな智識と経験による諸先生のご努力であり、全会員の協力の結集である事を思います時、ただ感激の他はありません。

昭和三一年、福井県支部が結成されます時、現地で開業しておりました私は、中村しゆう先生、藤田きぬ先生、そして今は故人となられました富田美耶子先生等のお手伝いをさせて頂いた事がありますが、当時東京で開催された日本女医会の総会に出席し、その都度新鮮な息吹きを持ち帰り、随分と明日への励みになった事を思い浮べます。中央でまた支部で活躍される女医会の業績は、広く日本の津々浦々に浸透し、その交流もまた密にして、当時私は、女医会の一員である事の喜びと誇りを持つ事のできるよう、心から念願していたものでございました。が、今や日本女医会も、社団法人の確固たる基礎のもとに、四年を経過し、その事業も大きくふくらみ、高知、熱海、東京、そして次回は金沢で総会が開かれ、その盛大な事と会員の漸増は、いやが上にも女医相互の啓発と親睦に大きい役割を果している事を示すもので、誠に喜こばしい事と存じます。

一九七六年には国際女医会議が日本において開催されようとし、今着々準備はすすめられていますが、この膨大な行事に際してもまた会員一人一人の和の心が大きい日本女医会の団結となって、日本女性らしい誇りある盛会がもたれる事を念願しております。

何分未熟の私にとりましては、前期監事としての在任中にも佐藤イクヨ先生、添田百代先生を始め、諸先生から多大のご指導を頂きました事等を胸に刻み、誠意と和をもって一生懸命お手伝いさせて頂く所存でございます。

諸先生のなお一層のご支援とご鞭撻を切にお願い申し上げます。

川島　富久子

この度、愛知県支部から日本女医会理事に新しく名市大の同窓会をすいせんしていただき私がその第一回生であるという事から押し出され理事の末席を汚す事となりました。

名古屋に育ち女学校も女子医専も名古屋市立の学校を卒えて、ずっと田舎に住み生粋の名古屋人で、女医会には昭和四二年に入会させていただきはしたものの、まことに申しわけない仕儀ながら、本部の事にはつい無関心になりがちでした。今更日本女医会の理事などとはゆめゆめ頭になく、本年五月総会の選挙の折にはヨーロッパ旅行に参加しており、私の趣旨はともかく形式は立候補という事になっておりながら、総会当日に出席できませんでした事を、改めてこの機会にお詫びいたします。

女医会として国際女医会への参加は大きな仕事の一つと考えますが、先輩諸先生方のご努力で活発にその成果を発揮しつつあり、来年はブラジルにおいて、次回昭和五一年には日本で開催されるという事は、本当に意義のある事と存じます。会員の皆様方に、大いに関心をもっていただき、各自がインターナショナルな問題に目をむける機会を作ってゆきたいと思います。かよ

うな重大な折柄、微力ながら責任の一端をになう光栄に浴し得たのは、恵まれた感がありますものの、その任にたえるやとも心配しております。

本年三月愛知県支部は創立十周年をむかえ、支部長始め関係者のご努力で盛大に行事が行われました。十年をひとくぎりとして女医会の今後のあり方が一つの課題かと思われました。私たちはほとんどが医師会に属し、医者としては男性と同じ仕事を営んでおり、男性側から〝女医会とは〟と問われる時、その適格な返答に迷いましたが、最近では女医の役割はおのずから違うものがあるように思われてきました。日々の診療から患者さん或はその家族から〝あゝ女医さんでよかった〟と喜ばれる事があり、女医であるが故に診療しやすいと思った事も経験しております。逆にまた精神科においてこの患者さんは男の先生の方がよいと主治医をかえる事もあり、それぞれ役割の違いがあるように思われます。

また愛知県支部の仕事として〝婦人と子供の健康相談〟を月に一回各科の会員の先生方が出て相談に応じております。日頃のあわただしい三分診察といわれている時にゆっくり話をきいていただけるということだけでなく、女の先生方に心から話ができるという心安さが好評を博しているのだと推察しております。

各科の専門分野においても、また地域社会にとっても、女医の役割がどのように果されているのか、Role Playing の原理に立って、追求してみたいと思っております。ささやかな抱負をもちまして新米理事のご挨拶にかえさせていただきます。

熊谷美津子

日本女医会は、私にとりまして楽しい会であり、喜んで出席する会の一つでありました。旅行の楽しみとともに旧友に逢えること、新しい友人ができることなど、とくに万国博の医療奉仕に参加したのは、仕事以上に楽しい経験でありました。

日本女医会の存在をこのように考えておりました私が、まったく思いもよらない推薦候補者という立場におかれて当惑いたしました。

しかし先輩や友人のお勧めに従い、また多くの先生方の御支援により理事の一年生にさせていただきましたことは深い感激でございます。それとともに私は大きな責任を感じております。正直に申しまして、まだなにもわかりませんけれど、先日、新役員による第一回の理事会が開かれて理事の役務の分担がきめられ私は庶務に配属され、また国際女医学会総会準備の仕事の総務に属するようにきめられました。この重大な責務を果せるかどうか不安ですが、先輩理事の先生方の御教えをいただきながら一生懸命にやっていきたいと思っております。

〝抱負〟と申しますより、さしあたってこの重大な国際女医学会の準備に対して与えられた仕事を心をこめて勤めて参りたいと思っております。

今後医療のこと、婦人の問題、子供や老人の問題、家族の問題など私どもに密接なことから勉強をはじめるとともに、日本中の女医が仲良く手をつなぎ大きな輪〈和〉になってこの三年の後に日本で開催される国際女医会議が成功裡に運ばれますように願っております。私はその輪のなかの一人でありたいと思っております。

どうぞこれから一層御指導くださいますようにお願い申し上げます。

（四八・七・二六）

福島峰子

秋田は梅雨とても雨をみず、毎日真夏の暑さが続いております。聞くところでは測候所開設以来の旱魃の由であります。

さて去る五月、東京にて行われました第18回定時総会の席上、任期満了にともなう役員改選があり、至誠会、鶴風会、加多乃会およびその他の同窓会から理事を選出するという定款改正に従って選挙がありました結果、私はその他の同窓会というグループから選ばれました。多くの方々の御支援を得ましたことを紙上をかりまして御礼申し上げます。

吉岡弥生先生の創設された伝統ある東京女子医大をのぞいては、戦後総て男女共学となった現状では、今後、その他の同窓会からの会員も増えることが期待されます。これは女医会にとって好ましいことでしょう。

一九七六年には国際女医会の東京大会が帝国ホテルで開催されることが決っております。それを成功裡に終らせるか否かは三神会長、小野東京大会会長を中心とし、準備委員会の御活躍とさることながら、日本中の女医が一人でも多く女医会のメンバーとなり協力することが不可欠でありましょう。私が今回理事の一人に推薦されたのも一つには国際女医会東京大会を成功させるよう努力するようにということでもあろうかと存じます。

札幌での日本産科婦人科学会総会と日程が一致したため、止むなく第一回理事会に出席できませんでしたが、その記録から国際女医会準備委員会では学術部門を割りあてられているのを知りました。国際学会は言葉の問題をはじめとして各国の風俗習慣の違いなどから通常の学会以上の運営の困難さがありましょう。

私もこれまで参加した数回の国際学会の経験などを生かし、久保田先生、藤井先生、添田先生に御力添えできればと考えております。日本で毎年何らかの国際学会がありますが、なかなか好評を博しているようです。日本人の立派な研究業績の発表と同時に、日本人の会の組織作りの手際良さは定評があるのだそうです。

東京大会もそれらの例に洩れず成功しますよう、できるだけ努力したいと存じます。

話が前後致しましたが日本女医会の役務分担では渉外ということですが、私はまだ理事会に出席できないでおりますので、佐野先生はじめ渉外担当の各理事の方から色々御教示を受けながら勉強いたしたく存じます。よろしく御願い申し上げます。

なお、新設大学のトップをきった秋田大学にも女医をめざした方々がかなり勉強しています。どんな会でも若い方々がどんどん入って来なければ沈滞しますので、医学会の分科会としての女医会を、大いに認識していただくべく、この点も努力したく存じます。

女医会の今後増々発展致しますことを祈りつつ。

藤井儔子

真夏の夜の夢ではなく

〝十年一昔〟などと〝十年間〟を時の区切りの一単位によく使いますが、日頃は年令を忘れて仕事をしている私も卒業後二十年余経ったのだと考える機会にぶつかると、次には若い卒業生はこの社会の中で自分達の存在をどのように考えているのだろうかと、若い人々のことが気になります。

さいわい大学で学生や若い医局の先

生方と接する機会があるため、少しは若い人々の考えも耳に入りますが、その majority の意見はこうだという程にはまいりません。やっぱり、それぞれの年代の人々の意見は、沢山の声が集まらないと抽出されません。どうしてこの人は医学の道を志したのだろうかと首をかしげたくなるような人も稀には居りますが、大多数の人は自分で選んだ筈の医学の道を一生歩きつづけるわけですから、医者としての、そして女医としての、世の中に対する意見を何かもっていることでしょう。

この社会には、各年代に共通なものと、年代に関係なくタテにつらなる共通点とがあるはずだと思います。その交錯が時には、もつれてトラブル発生点となるかもしれませんが、どこの交点がきれても、どこかにヒズミが出るのではないでしょうか。現在の日本女医会のタテ・ヨコ連なる網の目をみると、若い人々によって新しく出来つつあるところは、スケスケの感じがします。積極的に、そのつなぎ目になる人が増え、密なものが出来上ることを願うこの頃です。やがて、それは世界を1単位として、そのパーツともなるのではないかなと考えます。

どちらかというと、本を読んだり勝手な空想をして、時にそれを実証しようとネズミを相手にしたり、あるいは学生の顔を眺めながら、今日は大部分の人はわかってくれたらしいぞ、今日はすっきりしない顔が多いから、どうやら難かしく話をしてしまったらしいぞ……、などと考えて時間を過している方が気楽な私です。でも、若い人が日本の社会あるいは世界の国を相手として、何かの夢を実現する手がかりになる一つの場所に日本女医会がなったらよいなと考え、そのお手伝いが少しでも出来ればよいが、と思って居ります。

御推薦下さいました先輩の先生方、選挙して下さいました皆様にお礼を申し上げるとともに、これからも遠慮ない声をいろいろおきかせいただきたく、お願い申し上げます。

日本女医会宮城県支部
総会報告

幹事　長池博子
　　大川璟姫

右総会を六月十七日正午から、仙台ホテル・カトレアルームで開催いたしました。

出席者（順不同、敬称略）

関、安倍、松山、涌井、佐々木(和)、熊谷（サチ）、大場（幸）、笹島、田口、菅野、高橋(志)、梅原、吉田、中村、桂島、柴崎、鎌田、芳賀、橋本(クニ)、橋本(則)、邱、大川、長池

ゲスト　藤尾（交通災害学会で御来仙中）

以上二四名の集りでしたが、生憎結婚シーズンのこととて、出席出来なかった方や、交通災害学会と重って欠席の方もありましたが、そのために来仙中の先生もお迎えできて、約三時間和気あいあいと語り合いました。

支部として決めた事項をお知らせ致します。

一、支部創立以来の関清子支部長は、昨年、開業五十周年を迎えられたので、この機会に支部長を辞退したい旨申し出られ、みんなで相談中でしたが、安倍マサ先生を新支部長に、関前支部長は名誉支部長に決まりました。

一、昭和四八年新卒であらたに入会なさった橋本則子先生（東京女子医大卒、橋本クニ先生の御長女）をお迎えし、また、ご夫君と一緒に新規開業された熊谷サチ子先生（東北大卒、大場幸子先生の御義妹）も初めて出席され、それぞれの挨拶の中にも、新しい抱負を語られ嬉しく思いました。

一、邱　杏先生は、昭和十六年東京女子医専卒で台湾の高雄市で開業していられた方で、今年の五月に、日本の要請に答えて、はるばる僻地診療のために来日なさった方。総会の案内状を出したところ早速前日から来仙して泊りがけで当日の会に出席して下さいました（離れ小島で日帰り出来ない程の僻地です）。御家族と離れて単身ご赴任との事で、いづれご夫君も来日の予定とか……。

住所は　〒九八六―二二
宮城県牡鹿郡女川町出島字出島130
女川国保診療所　邱　杏先生
電話　出島　〇二二五〇七―五

です。日本女医会にも正式に入会なさったので、何卒よろしくご声援下さるようお願い致します。

一、安倍支部長より、五月十三日に催された東京での総会の報告があり、吉田芳先生からは会計報告があり、一同承認いたしました。

一、副支部長の件は相談の結果、選挙により次の三先生に決りました。

鎌田宣子、梅原ミヤ、長池博子各先生です。

一、特別講演は、目下ブームを呼んでいる「ワイン」について、三楽オーシャンの課長にお願いし、かつ試飲もさせて頂きましたので、最後になって、ますます会が盛り上りましたが、定刻三時に閉会。

なお長池先生の努力によって、やっと整理の出来た名簿を当日配布出来たことを嬉しく思いました。

以上支部総会の報告と致します。

本部だより

吉岡弥生賞候補者推薦について

昭和四九年度（第六回）吉岡賞受賞の候補者を昭和四八年十二月十日までに本会理事または支部長宛ご推薦下さるようお願いいたします。

日本女医会名簿発行について

昭和四八年十一月下旬名簿をお送りいたします。

住所、電話番号、その他の訂正箇所がございましたら大至急本部までご連絡願います。

定例理事会議事録

日時　昭和四八年四月一四日（土）
　　午後三時二十分～五時三十分
場所　東京女子医大　中央校舎一階
　　会議室
出席者（敬称略）　三神、小俣、川那部、山崎、小野、久保田、白橋、中川、中西、丸山、森、守安、阿部、荒川、石田、稲葉、上田、佐藤チ、佐野、鈴木、中村、長池、福永、松岡、真鍋、森川、山口、山本、湯本、佐藤イ、添田、八木
欠席者（敬称略）　大原、柳瀬、綾仁、栗原、戸田、橋本

会長挨拶

庶務報告　　小俣副会長

会員物故者

香取　京子（北　区）	48・4・6	
黒宮　瑞枝（栃木県）	43・4・9	腹膜炎
岩田　愛子（江戸川）	48・4・11	癌

47年度会員動静状況

総数	四、五二四名（四八・三・三一現在）
新入会員	二三二名
うち新卒入会員	九八名
住所変更	二四四名
脱会	三三名

住所不明　一四六名

寄付　花王石鹸（株）より総会費として三十万円

労働省婦人少年局主催〝婦人週間について〟に中川理事出席

会計報告

三月分会計報告　別紙通り

佐藤千代子理事よりルーペンダンの昭和四八年度の収益報告（前紙）あり、ローヤリティーを値上げする件については無理なので、決算期がすんだ時点で何らかのかたちで精算したいとの井手商店の意向であった。

議事

A　四七年度収支決算の件　中西理事

収入の部　一部訂正（国際女医会基金利息を本会計に入れる）別紙通り　―承認―

支出の部　一部訂正を加え別紙通り　―承認―

B　財産目録の件　中西理事

一部訂正

資産の部（普通預金の項）

負債の部（当期剰余金の項）

を加え別紙通り　―承認―

C　国際女医会基金の件　中西理事

一部訂正（普通預金の項）を加え別紙通り　―承認―

D　年金の件　中西理事

別紙の通り　―承認―

E　剰余金処分案の件　中西理事

当期剰余金の項訂正

その処分を

1. 事務所備品費として七十万円

2. 国際女医会準備費として百万円

3. その残金は会館設立準備金その他の準備引当金とする　―可決―

F　四八年度予算案の件　丸山理事

収入の部　会費二千五百円に値上納入率八〇％として会費収入を計上した旨説明あり、別紙通り　―承認―

支出の部　別紙通り　―承認―

・本年度より退職積立金の項新設

・事務所引当金は事務所賃借料となる

・会費納入率、管理費の経費について質問あり、会長と丸山理事より説明あり。

G　定時総会の件

会場その他の件　山崎副会長

・総会は帝国ホテル別館七階スカイルームにて

・ステージ使用してもよいか（費用八万円）　―可決―

・評議員会々場に総会場の一部を使用しては如何　―可決―

・昼食はレインボーグリルにて

・懇親会　中国料理にしては如何　―可決―

（人員把握その他の理由で）

懇親会出席申込と共に費用納入をしてもらっては如何　―可決―

選挙の件　松岡理事

・選挙権のある会員はリボンをつける

・選挙方法を充分に一般に説明する

・選挙は庶務担当理事および選挙管理委員がこれを管理する

・理事の選挙（一五名連記）

・監事の選挙（一名単記）

・新理事による理事会後、会長選出

・選挙管理委員を各同窓会より五名計一五名（理事候補者でない会員）を選出

・選挙管理委員

至誠会（清水五合子、太田八重子、唐沢寿、滝沢テル、串田つゆ香）

鶴風会（磯村光子、鈴木文子、星野和子、藤田親代、小川昭子）

加多乃会（山田未知子、松月とし、近江久子、末野三八子、二村芙美江）

・庶務担当理事、選挙管理委員打ち合わせ会を行う

とき――五月一二日　午後三時三十分

ところ――帝国ホテル　鶴の間

H　国際女医会組織委員会の件

顧問（神長三会委員長）

- 総務部　部長　山崎副会長
- 渉外部　〃　佐野理事　中川理事
- 会計部　〃　小俣副会長　守安理事
- 学術部　〃　久保田理事　藤井
- 募金部　〃　川那部副会長　森川理事　長池理事
- 地区別　〃　佐藤千代子理事

副部長に関しては各部二名位選出して発足しては如何　―可決―

I　次期総会開催地

石川県（内諾は得ているが総会までに決定）

次期国際女医会開催地　ブラジル

日数二十日間の予定、費用は八十万円位の予定

常任理事会　議事録

日時　昭和四八年六月二三日（土）

常任理事会　午後一時～二時

理事会　二時～三時

パーティ　三時～四時半

部会　四時半より

場所　朝日東海ビル

出席者（敬称略）

三神、小俣、川那部、山崎、上田、大原、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、石田、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、中西、野中、藤井、真鍋、森、山本、湯本、八木、佐藤ィ、添田、戸田

欠席者（敬称略）

長池、福島、森川、山口

会長挨拶

庶務報告　柳瀬理事

1. 会員物故者

梶尾　せき（都下）48・5・2

渋谷　美恵（秋田）48・5・7

城　淑江（鹿児島）48・5・11

栗原　ヤエ（品川）48・5・15　肝硬変

田中シヅ江（静岡）48・5・24

畑中　繁子（都下）48・6・6　癌

2. 寄付金

芝本産業（総会場にてエメラルド陳列）より五万円

3. 寄贈品

安田信託より花びん、壁時計（事務所用）

4. 校債名義書替

荒川あや先生名義一千万円を吉岡賞と名義変更

5. 哲翁たまよ女史顕彰像建立趣意書送付あり

概要

・規格　胸像等身大

・建立場所　口之津町

・製作者　北村西望先生

・除幕　昭和四八・一一・三（文化の日）、

・資金目標　三百万円

・寄付金送先　口之津町役場内

6. 社団法人日本文化協会光のプレ

ゼント運動委員会より寄付依頼状あり（盲人の手術費・盲導犬）

会計報告　丸山理事

四月分、五月分　別紙の通り

吉岡賞は予算額と支出額で四十万の差額あり、不足分は何処から出すか

―福永理事

一応予備費より支出する―会長

議事

1. 哲翁たまよ先生顕彰像建立に対し三万円寄付金を送付する

2. 光のプレゼント運動に対し一万円寄付

―以上可決―

3. 日本女医会　役務担当

① 庶務　上田、久保田、石田、熊谷、白橋、野中、山口

② 会計　福永、守安、稲葉、中西、長池

③ 渉外　佐野、中川、福島、真鍋、山本

④ 事業　小野、柳瀬、川島、佐藤千、竹内、森川、八木

⑤ 編集　大原、丸山、藤井、森、湯本

副会長は一定の部に属さず何れの部の相談も受けることにする

4. 国際女医会総会組織委員分担

地区別委員　森川、佐藤千、長池、川島

総務　山崎、上田、守安、石田、熊谷、竹内、野中、森、山口、八木

渉外　佐野、大原、中川、白橋、真鍋、湯本、中村西

募金　川那部、柳瀬、山本、戸田

会計　小俣、福永、丸山、稲葉、中西、佐藤ィ

学術　久保田、藤井、福島、添田

各委員会の事務分担の項目はいづれ文書にする

5. 国際連絡書記

佐野あや子理事

6. その他議決事項

① 至誠会館落成式にお祝として五十万円贈る

② 女子医大熱帯医学研究同好会、消化器病センターのインドネシアにおける肝炎の調査活動に対し十万円援助

③ 名簿発行に際し広告料記事中一頁二万円以上協力をお願いする

④ 四九年国際女医会総会（ブラジルにおいて開催）に次の二つのグループをつくり参加者を募集する

a 小児科学会と国際女医会

b 国際女医会のみ

（上田・久保田）

冬季欧州の旅　ご案内

昨今の海外旅行ブームを反映してお正月を海外で過ごす日本人が年々増えています。

例えば今年のお正月は約十二万人の人がヨーロッパ、東南アジア、ハワイなどでお正月を迎えられました。そのようなお正月に脱日本を試みる皆様方のために、魅力ある欧州旅行を企画いたしました。

今回は、欧州の中でも冬が比較的暖かい地中海沿岸及びスペインに焦点をあわせました。輝やく太陽と紺碧の海は必ずや皆様残に一生残ることでしょう。

会員諸先生の御参加はもとより、かねてご苦労を共にされておりますご家族及び近親の方々、福利厚生の一環として看護婦、薬剤師の方々の日頃の労をねぎらう意味で本旅行のご参加をお勧めいたします。

なお、現地のご案内は、経験豊富な添乗員がお伴しますので、海外旅行が初めての方も安心してご参加できます。

旅行期間　十二日間

自昭和四八年十二月三十日（日）

至昭和四九年一月十日（木）

旅行日程

東京～フランクフルト（一泊）～ニース（一泊）～サンレモ（一泊）～ローマ（二泊）～マドリッド（二泊）～パリ（二泊）～東京

募集人員　二五名様以上

総経費　三二万八千円

この総経費には、航空運賃、バス料金、ホテル料金、毎日三食

申込金　五万円

申込締切日

昭和四八年十一月二十日（火）

申込先

東京都新宿区市ケ谷河田町一九

日本女医会本部

電話〇三―三四一―〇九六八

★ニース・サンレモ

ヨーロッパのハイソサエティーが訪ずれる地中海に面するリビエラ海岸。夜はカジノでお楽しみ下さい。

★マドリッド

ドン・キホーテやカルメンの舞台となった、情熱の国スペインの首都。本場のフラメンコをお楽しみになれます。

★パリ

ヨーロッパ文化と芸術の中心地。シャンゼリゼー通りのカフェーに腰かけ、本場のブドウ酒をお召し上り下さい。

編集後記

役員改選に伴って本号から編集を担当する顔ぶれが変りました。大原、丸山、藤井、森、湯本の五名です。前任者の残されたよき編集方針を踏襲しながら、今後少しずつ新機軸を加えてまいりたいと願っております。

機関紙というものは元来、会の本部から会員への広報という大きな使命をもっていますが、できれば一方通行にとどまらず、会員の皆さまからの御投稿も掲載したいと思います。但し紙面は限られておりますので、できるだけ簡潔におまとめ下さい。詩、歌、句、短文などの小さな欄が皆さまの日常の憩いの場となりますよう全国の会員の方々のご協力をお願いします。

次号の締切は十一月末日です。

× × ×

九月に入り頻にふれる涼風に漸く秋が感じられるようはなり、ホッとしましたが、今年の夏は、思えば本当に長い長い、暑い夏でした。地方によっては三十八度を越したという、史上稀れな異常な暑さのほか、西アフリカほどでないとしても長期の旱ばつが日本列島全体を襲い、深刻な水不足のため、日常生活に大変な苦労を味われた会員も多かったことでしょう。おそまきながら御見舞申し上げます。

× × ×

米秋ブラジルのリオ・デ・ジャネイロでひらかれる国際女医会総会では、国際女医会総会では、国際女医会長のバトンがアメリカのモラニ女史からわが小野春生女史に引きつがれて、いよいよ小野春生国際女医会長が誕生する意義ある大会で、わが日本女医会史上、はじめてのことです。次回開催国として大挙して参加しましょう。

48・9・10　大原　一枝　記

昭和四八年九月二十日印刷
昭和四八年九月二五日発行
編集人　大原一枝
発行人　日本女医会
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
社団法人　日本女医会
TEL（341）〇九六八
印刷所　東京都港区白金五―四―一
興栄美術印刷株式会社

題字　吉岡弥生